No．３

| 評価項目 | 平成26年度　具体的な手立て | 平成26年度（前期）　評価の分析 | 平成26年度（後期）　評価の分析 | 平成27年度　具体的な手立て | 平成27年度（前期）　評価の分析 |
|---|---|---|---|---|---|
| 思考力・判断力・表現力の育成 | ・生活指導担当と連携し、家庭学習の実態について把握する。　・休日前に計画的に課題を出すなどして、家庭学習の充実を図る。　・進路担当や道徳担当と連携して、将来に夢が持てるような取り組みを計画する。<br>・研修担当と連携し、「学習意欲を高める指導」に関する研修を行う。 | ・毎日の授業を楽しみにしている生徒の割合が増加している。<br>・教職員も工夫をして授業を行ったり、話し合い活動を取り使用当と連携して、将来に夢が持てるような取り組みを計画する。<br>・研修担当と連携し、「学習意欲を高める指導」に関する研修を行う。<br>・「受信」「思考」「表現」のプロセスを意識しての指導や支援という点では、少し課題がある。 | ○教職員評価の①「私は、生徒の興味・関心を高めるような授業の工夫を行っている。」のパーセンテージが上がってきており、それに呼応するように生徒の①「私は、毎日の授業を楽しみにしている。」も少しずつ上がってきている。<br>○教職員の③も4評価となっているが、本校では本年度の指導の重点に「言語活動を重視した学習指導」をかかげており、いきいき学校園づくり事業を核として、取り組んできた研究の成果が出ているのではないかと考えられる。<br>○保護者の評価としてはB評価であり、パーセンテージは少しずつ上がってはきているが、各教科での魅力ある取組を保護者に啓蒙していくことも今後的には大切であると考えられる。 | ○引続き「工夫ある授業」「話し合い活動を取り入れた授業」の充実を目指していく。<br>○次年度に向けては、さらに「話し合い活動の仕方の充実」「内容の高め合い方」「受け取ったものを「表現」する力」をつけるための取組を研究担当と連携しつつ進める。<br>○小中連携の取組の一つとして、教科ごとに連携のための会議を持つ。 | 【授業】<br>○授業がわかりやすく楽しいと感じている生徒が増加している。（63P→80P）また、保護者も、肯定的な評価が昨年度よりも5P上昇している。これは、教員の授業改善への意識の高さ（90P）に裏付けられていると考えられる。<br>＊2学期の授業公開研修を機会にさらに授業改善を図る。<br>＊小中教科連携会（10月）でさらに研修を積む。<br>＊受信・思考・表現のプロセスを意識する。<br><br>【言語活動】<br>○生徒は、自分の考えを人に伝えることに苦手意識があると考えられる（68P）。一方で、教員は、話し合い活動を授業に積極的に取り入れている意識が高い（91P）。この意識の違いを埋めることが、2学期以降の課題である。<br>＊生徒が表現しやすいような発問や言語活動を工夫していく。 |
| 自他を思いやる心の育成 | 道徳の授業を楽しみにしているという思いが増えるように、まだ授業の形態や話し合い活動の取り入れ方等を工夫することが必要に思う。自分の意見を言うことが楽しいという雰囲気づくりがすすめられるとよいので、協同学習や学び合いの手法を研究していくことも考えたい。<br>保護者については、昨年度に続いて授業内容や生徒の感想などを知らせることができるとなお理解を得やすいように思う。できるだけ負担が少なく、知らせやすい方法を検討したい。<br>教職員については、今の状態を継続するとともに、マンネリ化しないように新しい視点も取り入れながら引き続き取り組みをすすめていきたい。 | 道徳の授業を楽しみにしているということについては、少しずつではあるが数値が上がっており、継続して取り組んでいる効果に期待したいところである。2学期には輪番道徳も予定されているので、引き続き授業形態を工夫したり、、話し合い活動を取り入れるなどして生徒が楽しみにできるような授業をめざけたい。<br>周りの人を大切にする思いは、高評価が続いている。<br>保護者の評価は、横ばいではあるもののますますの評価を受けているので、できれば80%以上になるように、何かプラスアルファの取り組みができるとよいと思う。<br>教職員については、近年道徳の時間を大切にしようとしてはいるものの、やはり学期ではどうしても行事中心の取り組みとなり、道徳の授業に時間をかけにくかったものと考えられる。2学期以降の取り組みに期待したい。 | 生徒の道徳の授業を楽しみにしているという質問の評価は、このところほぼ横ばい状態で、教材や授業形態等に何か工夫が必要と思われる。自分や周りの人を大切にしているという項目は、今回も高い評価が出ているので継続したい。<br>保護者の評価は、前期より少し上がっていて、通信や掲示物等の効果が出ているように思う。<br>教職員については、2つの項目とも高い評価になっている が、「いきいき」もあって、道徳以外の授業にも力を入れたため、自尊感情を育む心の育成の数値が、少し下がったのかもしれない。 | ○道徳の授業を楽しみにしているという思いが増えるように、引き続き授業形態や話し合い活動、教材等を工夫することが必要に思う。自分の意見を言うことや他者と意見交換をすることが楽しいと思えるとよいので、普段から意見の言いやすい雰囲気づくり、環境づくりに努めたい。さらに、協同学習や学び合いの手法も研究したい。<br>○保護者については、引き続き授業内容や生徒の感想などを知らせることができるとよいように思う。できるだけ負担が少なく、わかりやすい方法を検討したい。<br>教職員については、さらに自尊感情が育まれるように、行事の取り組み方などを工夫して、生徒が周りから認められる機会が増えるように考えていきたい。 | ○道徳の授業が生活に役立っていると感じている生徒が7割近くになり、さらに人を大切にしているという項目については9割を超えていることは現在の道徳教育が良い方向に向かっていると考えられる。心磨き清掃なども関係していると思われる。今後もB々のあらゆる場面で人間形成を視点に教育活動を展開していくことが求められていると考えられる。<br>○教職員の道徳の授業への取り組み度が低いのは前期が学校行事に追われていることが考えられる。後期は輪番道徳もあるので好転すると思われる。 |
| 特別活動 | ・各委員会から学校教育目標、あるいは指導の重点に照らした活動を1つずつ提案し、来年度の内に実行する（例：整美委員会の放課後清掃等）。<br><br>・部活動顧問の時間的負担の軽減、分担をする（一人で抱え込まない）。<br><br>・生徒会執行部を中心に、毎学期の大掃除の見直し、その他スクリーンやそれに準ずる活動を計画し、実行する。 | （係活動・生徒会活動）<br>生徒の評価、教職員の評価ともに3～4ポイント上昇している。前年度以前からの改善点といえば、生徒会執行部を中心とした目に見える形での様々な取り組みプルな位置収集や、各委員会が行う取り組み（朝読除等）があり、今回の4評価はそれによるところが大きいと考えられる。また教職員も、学校教育目標の下、生徒主体とした活動への取り組みを多く取り入れ、生徒の意欲・主体性を引き出すことに成功していると考えられる。<br>（部活動）<br>生徒・保護者ともに前年度以前から縦やかにポイントの上昇を見せている。各部活動の保護者説明会ではその他の力針等、保護者が知りたかった情報を提供できた。また、生徒の活躍をホームページや校門付近へ掲示したり、全校集会で表彰したり等、生徒やから各を出させる工夫も多くなされたものだと考えられる。教職員については、平日・休日に関わらず、部活動の監督を複数で担当することによって時間的な負担が軽減されたことで、より質の高い指導が可能となったこと が、ポイント改善の理由ではないだろうか。<br>（清掃・掲示物の整備）<br>生徒は清掃時間を有効に活用して真剣に取り組んでおり、その結果、保護者にも清掃が行き届いていることの評価を得ている。<br>教職員については、二学期から始まる自問清掃を前に、清掃に対する意識が高まっていることもポイント上昇の理由の一つであろう。また、各事門委員会による縦中物も年度になってから目に見えて量・質ともに増えており、その結果が見事に反映された数値になっている。 | （係活動・生徒会活動）<br>生徒・教職員の評価ともに大幅にポイントが低下している。生徒会執行部、各専門委員会、学級での係活動等、生徒によって積極的に取り組まれているようではあるが、実際に活動をする生徒以外の生徒には、そのことが伝わっていないこともある。活動の可視化が進んでいないことが原因とも考えられる。<br>（部活動）<br>生徒、保護者のポイントにわずかな下落が認められるが、全体として肯定的評価は80%以上を保っている。生徒、保護者、学校の三者が互いに信頼を寄せ、学校での教育活動の一環である部活動にも理解を得られていることの現れであろう。<br>（清掃・掲示物の整備）<br>保護者のポイントは若干上昇を見せているが、生徒、教職員に関しては大幅に下落していることがわかる。今年度9月末から取り組みだした「心磨き清掃」では清掃の目的が「心を磨くこと」に変わった。これまでは対外的活動だった清掃を分自身を振り返る機会になり、できていないことが目に浮かぶように なった結果、生徒、教職員の評価が低くなったのではないだろうか。 | 【係活動・生徒会活動】<br>生徒会執行部、各専門委員会の活動の可視化を、掲示物等を充実させることによって進めるよう、それぞれの委員会に依頼する。<br><br>【部活動】<br>それぞれの部活動で保護者説明会を行ったり、細やかな生徒への指導を行ったりすることが重要であると考えられる。さらに生徒、保護者の信頼を得るためには、部活動使り等、定期的な情報提供を行うことも有効ではないだろうか。<br><br>【清掃・掲示物の整備】<br>教職員へ一人ひとりの気付き清掃前放送を継続し、生徒会執行部でこれから展開していくの磨き清掃への取り組み（心磨き集会、掲示物等）を充実させるなどと、様々な手法で生徒の心へ心磨きの重要性を訴えかけることが必要なの | 【係活動・生徒会活動】<br>昨年度の後期から比べると意欲的に活動できている生徒が増えている。委員会や係の活動など、協力して行えていると考えられる。<br><br>【部活動】<br>生徒は意欲的に活動できている。保護者との信頼関係が良っており、生徒が一生懸命活動できる環境ができていると考えられる。<br><br>【清掃・掲示物の整備】<br>心磨き清掃が2年目となり、清掃に関しての意識は高くなっており、その結果、校内美化に努めている生徒が多くなってきていると考えられる。またそれにより、教員も普段から清掃や掲示物への意識が高くなってきていると考えられる。 |

| 評価項目 | 平成26年度　具体的な手立て | 平成26年度（前期）　評価の分析 | 平成26年度（後期）　評価の分析 | 平成27年度　具体的な手立て | 平成27年度（前期）　評価の分析 |
|---|---|---|---|---|---|
| 基本的な生活習慣の定着 | ○基本的習慣の徹底<br>・あいさつ、時間、服装、当番活動など、それぞれをきちんと行わせることを全教員で確認。<br>・チャレンジカード、あいさつ運動の活用<br><br>○相手を思いやる気持ちを持たせる<br>・道徳授業の充実<br>・世のため人のために運動 | 生徒、教職員はあいさつや早寝早起きなどの生活習慣の定着に向け意識をしているが、保護者からみると、生徒はど定着感がないようだ。<br>ルール・マナーについては、日々の積み重ねが少しずつ現れてきていることがわかる。<br>教職員があいさつをきちんと行うことから、生徒が進んであいさつできる状況を作っていくことが必要であると考えられる。<br>半分以上の生徒が、地域とのつながりを持ち、活動ができている。 | 多少の減少はあるものの、生徒は充実した学校生活が送れているようだ。<br>学校生活でのルールやマナを守る意識は高い。また、保護者からも子供たちの様子から、学校での指導は理解されているようだ。<br>家庭での生活についても声掛けや指導を行っているので、家庭での生活も充実しているようだ。<br>ただ、あいさつに関しては、進んでできていないようである。 | ○基本的習慣の徹底<br>・あいさつにおいては、教員から積極的にしたり、委員会などであいさつ運動を充実させていき、積極的に挨拶ができるようにしていく。<br>・チャレンジカードやあいさつ運動、服装点検などをきちんと行う<br><br>○相手を思いやる気持ちを持たせる<br>・道徳授業の充実<br>・世のため人のために運動 | ○あいさつ<br>あいさつについては生徒保護者ともに80%半ばで、あいさつに対する意識は高めであると言えるだろう。教職員のポイントが大幅に増加しているのは、前年度とアンケート項目の文言を変え、「あいさつをしているかどうか」を問う設問にしたことも関係しているが、委員会や部活動を通じたあいさつ運動がほぼ毎日行われていることと関係していると考えられる。<br><br>○規則正しい生活習慣<br>生徒については早寝早起きの徹底がなされていないようであり、保護者の回答からは、1時間の家庭でほとのことについての指導が少く行われていないのではないかと推測される。無関心や仕事の都合等、様々な理由が考えられる。<br><br>○ルール・マナーの遵守<br>この項目については三者とも意識が高く、生徒には「良き人であろう」とする心がありまたそうあろうとする心を育てる教育を学校・家庭・地域それぞれで取り組んでいる考えられる。 |
| 教育相談の充実 | 日々の中で生徒と会話をする時間を増やす。担任の負担を軽減して、生徒と直に関われる時間を確保する。 | すべての項目において高い評価になっており、日頃の担任を中心とした関わりが良いと言える。今の状態を維持すること手立てを考えていきたい。 | 教員は100%から91%にダウンしており、生徒の方も前期よりドがっている。<br>後期は生徒と関わることのできる時間が少なくなったことが原因とも考えられる。保護者はおおむね高く評価している。 | ○研究・研修も大切だが、もう少しゆとりを持った日程でにする必要がある。生徒と関わることのできる時間を増やすことのできるカリキュラムにする必要がある。 | ○全て高い評価になっている。日頃からの人間関係がよいことがうかがえる。後期もしっかりと生徒と向き合い、寄り添い、共に学ぶ姿勢で関わることを継続させたい。 |



No．４

| 評価項目 | 平成26年度　具体的な手立て | 平成26年度（前期）　評価の分析 | 平成26年度（後期）　評価の分析 | 平成27年度　具体的な手立て | 平成27年度（前期）　評価の分析 |
|---|---|---|---|---|---|
| 自ら将来を展望し目標を持てる進路指導 | ●今年度も来年度以降も常に3年間の見通しを持ったキャリア学習の計画・実施をしている。<br>●取り組んでいる学習について学年通信等で積極的な情報提供に努める。<br>●教育プランについて、教育相談や個人懇談の中の活用だけでなく、日々の生活状況をメモ帳代わりに記入しているものにするなど、いつも手元に置いておく存在にしていく必要がある。 | ○生徒の進路選択に対する意識および学校の指導に対する評価は、少しずつではあるが確実に高まっている。各学年における校外学習や進路学習への取り組みの成果が出ているのではないかと思われる。本年度3年生のオープンスクールへの参加数がかなり増加したのもその現れと思われる。<br><br>○生徒の意識向上に反して、生徒と保護者間の進路に関する意思の疎通、進路に対する会話の場が減少傾向にあるのではないかと感じられる。<br><br>○生徒一人ひとりの適切な進路選択に向けての教職員の支援に「個別の教育プラン」が少しずつ活用され始めていると感じられる。 | ○各学年の取り組みにより、生徒の進路選択に対する意識と学校の指導に対する評価は、少しずつではあるが継続的に高まっている。<br><br>○前期の結果と同様、生徒と保護者間の進路に関する意思の疎通、進路に対する会話の場が減少しているのではないかと感じられる。<br><br>○教職員の支援に、「個別の教育プラン」が活用されてはいないと感じられる。 | ○これまでの各学年での校外学習や進路学習等への取り組みをキャリア教育的な視点を加え、再編・充実させることにより、生徒の進路選択に対する意識をより高めたい。<br><br>○生徒と保護者間の進路に関する意思の疎通、進路に対する会話の場を増加させるため、保護者と生徒とでテーマを共有できる活動や取り組みを設定したい。<br><br>○長期的な視点で計画的な支援を行うために「個別の教育プラン」の活用が有効であるとの意識を教職員が再認識する必要がある。 | ○生徒の進路選択に対する意識及び学校の指導に対する評価は昨年度と大差なく、取り組みの成果は概ね出ているのではないかと思われる。オープンスクールへの参加も多かった。<br><br>○生徒と保護者の進路に関する意思の疎通、進路に対する会話の場は前年度に比べかなり向上しており、望ましい結果となっている。<br><br>○「個別の教育プラン」を活用や指導にあたっての意識は前年度に比べかなりの上昇がみられており、全体的に良好な状況に向かいつつある。 |
| 学校公開・情報の提供 | 【情報発信】<br>①行事や学校生活の様子の情報を家庭にタイムリーにより多く発信し、家庭での話題の提供に努めることで、家庭での親と子の会話の橋渡しをする。<br>②勤務多忙の中ではあるが、保護者の立場でどのような情報が受信したいかを意識し、1年間を通してコツコツと情報を打ち続ける。<br>③１情報メールを有効に活用する。<br>（ア：多くの情報をタイムリーに！！イ：部活動・学年・学級から）<br>一必要性からくる保護者の情報受信へ<br>Ⅱ配布時の伝達の工夫（担任の一言） | 【授業参観公開】<br>肯定的評価ポイントが、ここ数年で最低値になっている。特に1年生保護者は他ポイントと他学年を大きく下回っている。(2-3年生平均値87.4ポイントは昨年度前期並の数値である。)その要因としては、1年生保護者の評価の基準が中学校との比較の中で判断していることが考えられる。また、全体的には、今年度前期までの公開が4月の参観日だけであり、しかも内容が清掃活動であったことで、保護者のもつ参観授業＝普通授業の固定観念からすれば公開のイメージにはならなかったと考えられる。後期は、土曜授業（普通授業）もあり、さらに1年生保護者も中学校の様子にも多少慣れてきて思われるため、肯定的評価が高くなると考えられる。<br>【情報発信】<br>保護者と教職員の肯定的評価意識の格差は、昨年度前期と比較して17ポイント差から8ポイント差まで縮まってきている。その成果として、次の点が考えられる。(1)保護者アンケート質問文で発信内容を具体化して表記したこと。(2)生徒が家庭で学校の様子を話す機会が多くなっていることで、学校からの発信内容が保護者にとってより明確になっていること。(家庭での会話肯定的評価：昨年度より1.1ポイントアップ)(3)情報メール登録者数の増加とタイムリーに「有効な発信をしていること。(4)ホームページをグレードアップしたこと。 | 【授業参観公開】<br>前期の段階では、肯定的評価が80．7ポイントと低かったが、前期までは、4月の参観日だけであり、しかも内容が清掃活動であったことで、保護者のもつ参観授業＝普通授業の固定観念からすれば公開のイメージにはならなかったと考えられる。しかし、後期には土曜授業（普通授業）もあり、さらに前期に評価の低かった1年生保護者（65ポイント）も、入学して初めてのアンケートと違って小学校との比較で評価していたものが、後期には中学校の様子にも慣れたため、全体的に肯定的評価が高くなったと考えられる。<br>【情報発信】<br>○保護者の肯定的評価は、平成23年度からの3年間右肩上がりに上昇（17．2ポイント）している。その成果として、次の点が考えられる。(1)保護者アンケート質問文で発信内容を具体化して表記したこと。(2)生徒が家庭で学校の様子を話す機会が多くなっていることで、学校からの発信内容が保護者にとってより明確になっていること。(家庭での会話肯定的評価：昨年度より8．1ポイントアップ)(3)情報メール登録者数の増加とタイムリーに「有効な発信をしていること。(4)ホームページをグレードアップしたこと。<br>○課題として は、保護者と教職員の肯定的評価意識の格差（13ポイント）を埋めることである。 | 【参観授業公開】<br>○4月の参観授業日には、授業を公開する。<br>○1年保護者には、4月の学年懇談会で、年間予定の中で参観日の予定も告げ、小学校と違いを意識してもらう。 | ○生徒<br>平成25年度までは肯定的評価が低かったが、昨年度より上向きになり、今年度も6ポイント以上の上昇を示している。家庭内でのコミュニケーション（ほぼ子どもたちにとって非常に重なるので、学年便りや懇談会等で保護者にもこの結果を伝え、さらに協力が得られるよう促したい。<br>○保護者<br>「学校は、参観授業や公開授業などに、積極的に取り組んでいる。」の項目の肯定的評価が94．3%と、かなり上がっている。各種たよりや情報メール等による啓発活動、アンケート等の実施など、活気ある取組の様子が保護者に浸透しつつあると考えられる。今後も、学校公開・情報の提供などの取組をとおして、活気ある開かれた学校を目指したい。<br>○教職員<br>100%とはならなかったものの、かなり高い数値を示している。ホームページ・情報メール・各種便り等積極的な情報発信活動が定着し、自覚が深まっていると考えられる。 |
| 地域行事への積極的参加 | 1)生徒<br>・ボランティアの広報活動を積極的に展開をし、生徒の意識を上げていく。<br>・生徒会執行部が部長会や生徒評議員会などで参加を呼びかけてもらう。<br>・証明書を発行し生徒の承認されることの自己肯定感や満足度を上げ、リピーターを増やしていく。<br>2)保護者<br>・通信やHPなどで保護者にも参加の様子を伝えるようにする。<br>3)教職員<br>・参加が負担に成りにくいような参加体制を整えると同時に、今後も学校と地域との良好な協力関係を保っていためにも意識の改善も必要と考える。 | 1)生徒<br>・ボランティアの広報活動を積極的に展開をし、生徒の意識を上げていく。<br>・生徒会執行部が部長会や生徒評議員会などで参加を呼びかけてもらう。<br>・証明書を発行し生徒の承認されることの自己肯定感や満足度を上げ、リピーターを増やしていく。<br>2)保護者<br>・地域行事や祭りなどへの参加協力での参加が大きいものと考えられる。休日や夜間の補導など勤務時間外での活動が多いため、負担にならないように、継続的に参加しやすい職場の雰囲気や環境を整えていく。 | 3)生徒<br>ボランティアの意識としては前期より9ポイント程度高まっているが、アンケートの時期が活動がなかった部分があると考えられる。また、通信などで報酒動も中や少なかったことも理由として考えられる。ボランティア自体の生徒参加数も少なく、数値的には評価できるが、ボランティアという性質を考えると、生徒の意識は高いと思われる。<br>ボランティアや行事における連携に関して、90%を超える高い数値を残っており、教職には恵まれており、その他の分野にも少なからず貢献していると思われる。今後も、保護者・地域の理解が必要。<br>2)保護者<br>前期に比べると4ポイント近くは下落している。職務が多く、休日などの地域活動に参加しにくい状況がある。補導などは当番制で行うことも多い。「保護者・地域の協力をいただいて生徒を育む」という共通理解のもと、保護者・地域とのコミュニケーションを後も積極的に取っていきたい。 | ○生徒<br>・ボランティアの広報活動を積極的に展開をし、生徒の意識を上げていく。<br>・生徒会執行部が部長会や生徒評議員会などで参加を呼びかけてもらう。<br>・証明書を発行し生徒の承認されることの自己肯定感や満足度を上げ、リピーターを増やしていく。<br>・参加者アンケートの活用。<br>○保護者<br>・通信やHPなどで保護者にも参加の様子を伝えるようにする。<br>○教職員<br>・参加が負担に成りにくいような参加体制を整えると同時に、今後も「学校と地域との良好な協力関係を保っていくことで、生徒へ返っていく」という全教職員が共通理解をしっかり持てるようにする。 | ○生徒<br>・ボランティアの広報活動を積極的に展開をし、生徒の意識を上げていく。<br>・生徒会執行部が部長会や生徒評議員会などで参加を呼びかけてもらう。<br>・証明書を発行し生徒の承認されることの自己肯定感や満足度を上げ、リピーターを増やしていく。<br>・参加者アンケートの活用。<br>○保護者<br>・例年90%を越え学校側の活動に高い理解を示している。保護者や地域の期待が継続していけるように、、通信やHPで活動の様子を伝えるとともに、地域行事などで活動の見える化を進めていきたい。<br>○教職員<br>・地域行事や祭りなどへの連携はB評価程度下がっている。休日や夜間の補導など勤務時間外での活動が多いので、負担にならないようにする。継続的に参加しやすい職場の雰囲気や環境を整えていく。 |
| 特別支援教育 | ●特別支援教育コーディネーターを中心にして、校内のスクールカウンセラー、特別支援教育支援員、不登校児童生徒支援員等を効果的に活用するとともに、校外の様々な関係機関との連携を密にする。<br>●個別の教育プランの流れを年度初めに確認しあって継続する。<br>●発達障害についての知識や生徒との接し方についての認識が深まりつつあるために、日々の情報交換がより生かされる。 | ・特別支援教育コーディネーターを中心に、校内のみならず外部の関係機関とも随所で連携すると、通常学級で特別な支援を必要とする生徒への支援体制が確立されつつある。 | 肯定的評価の数値はほぼ横ばいではあるが、通常学級で配慮すべき生徒への支援が特別支援教育委員会を中心に、学年でも浸透しつつある。個別の指導計画が簡素化されたことも、生徒個々について全教職員で考えやすくなった原因だと思う。 | ○生徒面有の課題をきちんと分析し、その生徒に合った対応のしかたが望ましいである。ネットワーク会議等、校内外の関係機関、機関との連携がより大切だと思う。 | ○特別な支援を必要とする生徒への担任・学年の意識が高い。<br>①学校規模も小規模であるための全生徒の把握がしやすい環境である。<br>②個別の教育プランの活用意識が高まってきている。<br>③特別支援コーディネーターを中心に、ネットワーク会議・分業会などで機能している。<br>＊2学期以降、他の会議でも活用していく。 |
| 安全で気持ちの良い学習環境づくり | ・毎月1回の安全点検の完全実施<br>・生徒によるプランター整備や掲示物づくりを推進に、より環境に対する意識を高める。 | ・生徒の「私は、学校の施設・設備を大切にしている。」という評価が、昨年度よりパーセントの向上が見受けられる点については、本年度の学校の重点の柱でもある「整美、美化活動を通じてを通くよりう意識が実践活動の中で定着しつつあると思われる。<br>・学校全体の学習環境面に向けての教職員の意識レベルは高い。教室、廊下の整美、美化や掲示物のエチなどにそれが見受けられる。今後、保護者や地域との連携の仕方を工夫したり、生徒会や委員会、ボランティア活動を校外へ広げたり、広報していきたから。「自分たちの学校」地域の学校」という意識の中で、行事運営や活動を推進していくと。さらにより良い運動が生じると思われる。 | 学校の施設・設備を大切にしているという生徒評価が、前期よりは下がってしまっているものの、90%以上あり、生徒の意識の高さがうかがえる。<br>学校生活でのルールやマナを守る意識は高い。また、保護者からも子供たちの様子から、学校での指導は理解されているようだ。<br>家庭での生活についても声掛けや指導を行っているので、家庭での生活も充実しているようだ。<br>ただ、あいさつに関しては、進んでできていないようである。 | ○教職員による安全点検の結果を把握し、修繕等の処置をすみやかにおこなう。学校での対応が難しい場合は、教育委員会に働きかける。 | ○生徒の施設・設備は、安全な状態に保たれているという生徒評価が、昨年度前期より下がっている。西館トイレは修繕をし終えたが、プールの老朽化は、修繕してもなかなかきれいな状態にならないことも一つの原因と思われる。さらに、学校の施設・設備を大切にしているという生徒評価は高い。保護者の評価は毎回80%超である。保護者と共に行うスクリーン等を通して、学校の施設に関心を持っていただけるとありがたい。教職員は、毎月の安全点検を行い、校内での修繕を素早く対応していることが、高評価につながっていると思われる。 |
| 災害時等の危機管理 | ・災害や緊急時の対応マニュアルんついて全体確認を行う。<br>・避難訓練は前年度の踏襲にならないよう工夫を凝らす。 | ・年々、生徒の災害時や不審者対応など、安全に向けての意識の向上がうかがえる。昨年度の同期よりは約10%、一昨年度よりは、約2%の数値が向上している。この点については、学校での避難訓練や学活、道徳などの学習を通じての話や社会情勢に応じた家庭、地域での災害時などの対応についての機会に応じての話や防災事業などの推進が効果的に働いていると思われる。<br>・保護者の防災や安全についての意識は年度によらず、平均的に高い。<br>・教職員側の防災、安全についての指導対応が、昨年度と比較して向上しているものの、まだ低い現状が見受けられるため、防災、安全に関する意識向上と具体的な実践に役立つ研修が必要である。また、日頃より危機意識を常に相互に意識する工夫の声かけや安全管理の具体的な施策、実践が必要である。 | ・平成26年度前期と比較して、生徒の災害時や不審者対応など、安全に向けての意識レベルのポイント数が低下しているものの、前年度の平均と比較すると、前期・後期を通じて防災・安全に向けての意識は高いことがうかがえる。意識レベルポイントの低下要因の一つとして、学校での避難訓練や学活、道徳などの学習を通じての話や社会情勢に応じた家庭、地域での災害時などの対応についての機会などが、後期評価時に少なかったことも要因として考えられるが、通常の防災・安全の意識レベルを継続的に高める計画的な取り組みが必要であるように思われる。<br>・保護者の防災や安全についての学校の取り組み状況に対する評価は年度、前期・後期によらず、平均的に高い。<br>・教職員側の防災、安全についての指導対応の評価が、昨年度の同期と比較して約25パーセント向上しているものの、まだ低い現状が見受けられるため、防災、安全に関する意識向上と具体的な実践に役立つ研修が必要である。また、日頃より危機意識を常に相互に意識する工夫の声かけや安全管理の具体的な施策、実践が必要であると考える。 | ○生徒、保護者の学校の防災や安全へ指導対応、対策の評価が、80パーセントを超える結果となっていることから、学校側の取り組みが評価されていると考えられる。特に、生徒の防災・安全に対する評価が、平成24年度、平成25年度と年度が進むにつれて向上していることから、学校、地域、家庭での防災や安全に関する取組や声かけ、日頃からの話の中での話題提示により、防災、安全意識が向上しているものと考えられる。<br>○学校側の評価ポイントが、生徒や保護者の評価に比べて、10ポイント程度低い点については、さらに、防災や安全に取り組む必要性を感じている教職員がまいことを表している。防災や安全については、直接、生命にかかわる重要な事案であることから、避難訓練ならび、防災、安全に関する意識向上と具体的な実践に役立つ研修を進めが必要である。また、日頃より危機意識を常に相互に意識する工夫の声かけや安全管理の具体的な施策、実践が必要であると考える。 | ○生徒は、安全に向けての意識はこの2年間高いレベル安定している。この点については、昨年度と同様に、学校での避難訓練や学活、道徳など通じての学習や社会情勢に応じた家庭、地域での災害時対応、防災事業などの取組の推進が効果的に働いていると思われる。<br>○学校の防災や安全についての取組に対する保護者の評価は9割を超え、学校の取組が概ね理解、評価されているようである。<br>○教職員側の防災、安全についての指導対応の自己評価は一年ごとに上がっているものの、まだ8割に満たない現状が見受けられる。挨拶運動を来たたPTAと連携した交通指導運動等の新たな取り組みを本年度より実施しやすい環境づくりなる防災、安全に関する意識向上に繋がる研修や計画的な取り組みが必要で あると考える。 |